

能登國惣持寺、同寺領山林田畠敷地等目録在別紙、早爲祈願所、任當知行之旨、向後停止守護并檀那籍、可被抽精神之狀如件。

長祿二年十二月廿四日

内大臣兼右近衛大將源朝臣 在判

【總持寺文書】

九一七

謹言上。

年甫之佳兆千幸萬甚。抑御安堵御判舊冬出候。千萬珍重候。其子細普藏院主へ以果藏主便宜令申候。雖然便風之間、萬一下着遅々事可有次之候間、重而案文下進入候。於正文者愚僧可持參申候。尤早々雖可罷下候、方々御禮物等未合期候之間、于今逗留仕候。御禮錢事早々可上賜候。先割符三ヶ分、急此僧可渡給候。此間之入目被下追而可注進候。可預御披露候。恐惶敬白。

正月十一日

邦 崇 在判

進上 惣持寺侍衣閣下

【總持寺文書】

九一八

相國寺領能州櫛比五ヶ村内諸岡惣持寺、爲御祈願所、任去年十二月廿四日御判之旨、於向後不可有違亂煩之儀者也。仍狀如件。

長祿參年二月十日

庄主 紹寬 在判

惣持寺

十二月廿六日。足利義政、山城伏見稻荷社に、同社領石川郡針道莊を還付す。

【伏見稻荷社文書】

九一九

山城

稻荷社領加賀國針道庄事、所返付社家也。早退社僧等之違亂、全領知、可專神用之狀如件。

長祿二年十二月廿六日

内大臣兼右近衛大將源朝臣 在判

長祿三年 己卯

紀元二二一九

正月。假掲

【府中山王社懸繪裏書】

鹿島郡

九二〇

長祿三己卯歲正月吉日

畠山家臣

武運長久之爲

長 木工兵衛

(この懸繪裏書は、長木工兵衛が鹿島郡府中山王社に之を奉納したることをいへり。然れども肩書に畠山家臣とせるものは、當代の書振にあらざるべし。延徳元年四月の條参照。)

二月十七日。足利義政、倉光光利に、石川郡倉光開發及び玉鉾郷内の地等を還付す。

【溫故古文抄】

九二一

袖判

加賀國倉光開發、玉鉾郷内石丸名田壹町七段拾五代畠九段、柏野參分貳、嶋田保内田五段等事、任度々成敗并代々御判已下之旨所還付也。早倉光若狹守光利如元領知、不可有相違之狀如件。

進上 惣持寺侍衣閣下

【總持寺文書】

九一八

相國寺領能州櫛比五ヶ村内諸岡惣持寺、爲御祈願所、任去年十二月廿四日御判之旨、於向後不可有違亂煩之儀者也。仍狀如件。

長祿參年二月十日

庄主 紹寬 在判

惣持寺

十二月廿六日。足利義政、山城伏見稻荷社に、同社領石川郡針道莊を還付す。

【伏見稻荷社文書】

九一九

山城

稻荷社領加賀國針道庄事、所返付社家也。早退社僧等之違亂、全領知、可專神用之狀如件。

長祿二年十二月廿六日

内大臣兼右近衛大將源朝臣 在判

長祿三年 己卯

紀元二二一九

長祿三年二月十七日

(本文畠九段の次に中興保内田參町貳段を脱せしにあらざるか。應永廿一年四月十九日の條参照。)

三月十六日。足利義政、山城寶鏡寺尊永に、羽咋郡氣多社社務職を安堵せしむ。

【寶鏡寺文書】

九二二

山城

能登國一宮氣多社々務職、并若狹國玉置庄貳分方内貳拾斛等事、當御知行云々。尊永御喝食可令全領知給之狀如件。

長祿三年三月十六日

内大臣兼右近衛大將源朝臣 在判

四月廿七日。足利義政、狩野茂豊に、河北郡若松莊地頭職を安堵せしむ。

【狩野文書】

九二三

袖判

加賀國若松莊地頭職事、退清三位入道成忠、早任當知行、狩野孫六茂豊領掌不可有相違之狀如件。